

平成 29 年度 補助金決算効果報告書



平成 30 年 4 月 25 日

府中市議会議長 様

事業所の所在地 府中市府川町 3 1 5 番地

会 派 名 公明党

代表者名 大本 千香子

次のとおり政務活動による事業実績及び収入支出決算を報告します。

(1) 事業実績

1 事業名 政務活動

2 事業総額 250,982 円

3 政務活動の内容、効果等

1) 府中市役所

森山美知子教授を招いて「データヘルス計画」の研修会を行いました。

昨年 12 月に一次のデータヘルス計画をまとめた府中市であるが、国保データから見える府中市の医療・健康の状態を分析し、今後どこに力点をおき健康指導、予防医療に取り組むか手掛かりにするものとなりました。また、精神疾患羅患者の糖尿病重症化が顕著である。病気の性質上、多剤治療になりやすく、また生活習慣病の意欲的な取り組みが難しいことも考えられるが、精神疾患は府中市の病名別患者数の 1 位でもあり、早期発見、適正治療、病院から地域への流れを早く確立すべきである。データを活用して予防医療に取り組むには、人材が必要である。現在の健康医療課の体制では難しいので、外注か人員の配置が必要である。対処療法にお金をかけるより、予防への人材確保に予算を使うべきであると感じた。

2) 広島県庁

広島版ネウボラについて状況を確認しました。ネウボラには、専門職確保が必要だが、県の人材確保事業を活用して埋もれた専門職の発掘、育成が可能だと感じた。

30 年度には府中市もスタートできるような取り組みを考えたい。

庁舎の長寿命化について伺いました。ポートフォリオ分析による各施設の状況把握が今後の整備に不可欠であること。公共施設総合整備計画が策定されているが、総論的で現在の進捗は遅々としている。タイムスケジュールを明確にして早期の取り

組みが必要である。

また府中警察署は耐震化のみで機能的には改善されていないことが課題である。交通弱者対策について県の公共交通確保の方向性を確認しました。公共交通空白地域については、NPO、ボランティア、地域での取り組みに頼るかタクシーの効果的な活用、またタクシー料金の助成などが考えられる。財政的な課題、タクシー台数、乗務員確保などの課題が大きいと考えられる。

3) 広島県東部事務所

府中市内に関する本年度の県土木事業計画について進捗状況伺い確認しました。南北道路の橋脚工事の進捗状況、国道 486 号線の見通しなどの説明を受けました。県の 29 年度の農林事業概要報告をうけ、府中地域の事業説明・東部畜産事務所の活動を伺いました。

4) 岩手県滝沢市

公共交通の考えと取り組みについて伺いました。平成 18 年に滝沢公共交通計画を立て、今後必要とされる交通網について推進されたが、この間に社会情勢が大きく変化したため実施できないケースもあった。市職員 1 人で作成されたものであるが、完成度の高い計画であった。現在、この計画をベースに地域公共交通網形成計画を策定中で庁内横断的な取り組みをされていた。パッケージサービス・企画乗車券等は、即実現可能だと感じた。府中市の地域に合ったシステムでなければ、うまく回らないことを痛感しました。市民の意識改革も含めた丁寧な利用者視点での計画づくりを考えていくべきである。

5) 岩手県紫波町

紫波町オガールでは公民連携事業である駅前再開発に伴う紫波中央駅前都市整備事業としてオガールプラザ・タウン・ベース・センター・エネルギーステーションを視察し、これまでの取り組みを伺いました。遊休土地の利用・リスク管理をした上での計画と推進・民間活力の利用や公的資源の活用がうまく図られていた。府中市の道の駅、交流センター、観光協会等、今後の活性化にヒントが多く見つけられた。

6) 千葉県佐倉市

ファシリティマネジメントについて佐倉市を視察。市全体の施設管理を総合的に把握しデータを一元化して、ライフサイクルの最適化を目指す取り組みが行われていた。不要な施設、不足している施設、不適切な利用の施設などが見える化されて、施設改革により最高度の利活用が可能に。施設にかかわるコストの削減と市民サービスを確保しながら、最適な施設の確保ができる。市民一人当たりの公共施設面積は佐倉市 2.04 m²、府中市は 6.07 m²である。3 倍もある府中市は FM の実施と適正化に早急に取り組まなければならない。またデータを生かせるシステムが必要である。

7) 東京・議員会館

厚生労働省老健局振興課より第7期介護保険改革を伺いました。第7期では、地域包括ケアシステムの深化・推進として介護度の改善自治体への財政インセンティブ付与等を新たに計画されており、府中市でも取り入れて、介護度の改善につながれるのではないかと感じた。府中市が現在取り組んでいる方向性は7期でも大きな変化はないと確認できたが、推進のスピードを上げなければ現状に追い付かないのではないかと危機感をおぼえた。

9) 博多区

南 学講師による公共施設マネジメントセミナーに参加いたしました。

府中市のみならず全国に老朽化した公共施設の存在を今後計画策定し、どのように取組まれるのか。目途が立っているのか不安に感じました。計画策定のできている自治体もどこから手をつけて良いのかで、壁にぶつかっている現状である施設の更新は財源を含め、縮小や統合・廃止などの選択作業もあり、進まないのが現状である。行政改革の根幹的課題への認識が必要であり、首長のリーダーシップが重要であると感じました。今後の取組みは重要であり、スピードと問題意識の共有化が大切であると感じました。まさに老朽化と財政難のいま「経営」が試されるときである。利用度を含めた施設整備は急務であり、機能を重視した複合化に向けたデザインを行わなければならないと感じました。

10) 岡山県赤磐市

赤磐市環境センター「エコプラザあかいわ」の現状視察を行いました。広々とした敷地の中、施設の敷地内に公園を整備してあり、清潔感を感じました。公園内にはごみを燃やした際に発生する熱によって温められている足湯設備もあった。紙すきや廃油キャンドル作りなどを実際に体験する部屋があり、リサイクルを実践されていた。再生品展示室もあり、直したものを展示し、販売されていた。リユースも積極的に行われていた。

府中市においても今後のごみ処理施設のあり方を含め検討すべき課題であると感じました。

支援体制の必要性を感じました。専門性の高い職員による、市町への具体的なサポートや職員育成など、より身近な地域で相談や療育についての決定をおこなえる取組みが始まっている。府中市でも制度活用がされていた。現場ニーズのさらなる掘り起こしやスキルアップ研修の機会を増やすべきと感じました。

11) 広島市

就労準備支援事業所である「サポートルームあすはれ」の運営状況の視察をおこないました。

家から出れない状態の方が一気に就活に進めないため、大事なステップになる。

3人の就労支援員では足りないように思えた。人材の確保と予算付けが必要である。府中市にも生活困窮でひきこもり、高齢の親の年金収入での生活者など社会と接点のないかたへの対応をしなければならないと感じた。

一年間を通して、有効に政務活動費を活用できました。

他市の取り組みや先進事例、失敗事例なども伺えました。今後府中市に対して必要な提言がおこなえるよう取り組みを続けてまいります。

平成30年度は

- ・ 市政報告の発行
- ・ 市政報告会の開催
- ・ 府中市の観光・魅力発信力の向上の研究
- ・ 府中市地域包括ケアの研究・調査
- ・ 若者や女性の活躍する地域づくりの調査・研究
- ・ さまざまな先進的取り組みの調査・研究
- ・ 議員提案条例策定の研究

などを計画しており政務活動費を活用したいと考えています。

